

第3学年 国語科学習指導案

日 時 平成21年11月20日

(金) 5校時

児 童 3年1組 男16名 女

15名 計31名

指導者 野 中 節 子

研究課題

伝えたい内容を書き表せるような子どもの育成

1 単元名 まとまりに分けて書こう

教材名 「せつめい書を作ろう」(光村図書 3年下)

2 単元について

(1) 児童観

1学期の「分かりやすく書こう」(光村図書 3年上)の学習で、自分で見つけた題材で文章を書く活動を行ったところ、伝えたいことはあるのだが、なかなか文章に書き表せないでいる児童が見られた。また、学習したことを生かして文章を書くことが苦手な児童も数人いた。伝えたいことを書き表すために必要なこととして、段落の学習を通して文章の基本的な構成を学ぶことが考えられる。そのため、カードを用いて、文章構成を視覚化して書く活動に取り組んだ。この活動を通して、段落を意識して自分の考えを書くことができるようになってきている。

教材から学んだことをすぐに自分の文章に生かすことができない児童のためには、学習過程の工夫も必要である。「分かりやすく書こう」の教材では、全員共通の題材を学習してから個人の題材で文章を書く活動を行ったところ、ほとんどの児童が自信をもってそれぞれ好きな題材で書くことができた。

(2) 教材観

国語科第3学年及び第4学年の「B書くこと」の目標は、「相手や目的に応じ、調べた事などが伝わるように、段落相互の関係などを工夫して文章を書くことができるようにするとともに、適切に表現しようとする態度を育てる。」である。本単元を通して育てたい主となる能力は「B書くこと」の内容にある「エ書こうとする事の中心を明確にしなが、段落と段落との続き方に注意して書くこと。」である。

この教材は、児童が興味・関心をもっていることの中から題材が選べる。また、書く相手や目的が明確である。そのため、適切に題材を選び、取材から構成までじっくりと取り組むことで、記述や推敲まで、学習のねらいに沿って意欲的に学習できると考えられる。

取り上げている児童の文例は、七日間で一輪車に乗れるようになることを想定し、全体を一日一行程ずつの七行程に設定したうえで、各行程ごとに目標・練習の方法・注意点などを的確に書いている。段落的に説明することで、中心のはっきりした論理

的な構成を学ぶために適している 教材である。

(3) 指導観

指導にあたっては、次の点に留意して指導していきたい。

①本教材は、自分の「できること」を説明することになるので、これを説明したいという意欲や 書けそうだという見通しをもたせることで、児童は集中して学習に取り組むと考える。

②題材を選ぶ段階では、自分で考えるだけでなく互いの得意なものや教えてもらいたいものを指 摘し合うことで、選択の幅を広げるとともに、自分はこれが得意であるという自信をもたせ友 達に教えたいという相手意識・目的意識を高めていく。

③文例の学習では、単に手順を書き連ねたものと比較することで、読み手を「自分にもできそう だぞ」という気持ちにさせる表現に気付かせる。また、自らが一輪車に乗ることができるよう になったときのことを考えながら文例と比べさせることで、説明書として優れている部分を考 えさせたい。横書きの注意点は、活動の中で身に付けさせることができるようにする。

④構想を練る段階では、何がどのくらいできるようになるのか、その方法を説明するのだという ことを具体的に意識させ、そこまでの手順を考えさせる。さらに、それぞれの行程において、 うまくできるコツや、失敗しないための注意点についてメモしていくようにする。図や絵は、 文章で説明しきれない部分において活用させる。

⑤学習過程の工夫として、全員が共通の題材で書き、次に学習したことを生かして自力で書く過 程にする。

3 学習指導目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

○説明書に興味をもち、自分の得意なことを説明書にして友達に教えようとしている。

(2) 書くこと

◎読み手の心情や反応を意識し、読み手に語りかける文を交えながら説明する文章を書くことがで きる。

◎伝えたい事柄を精選し、順序や軽重を考えた段落相互の関係を考えて書くことができる。

○自分や友達の文章のよいところを見つけたり、間違いなどを正したりすることができる。

(3) 言語についての知識・理解・技能

○文章全体における段落の役割を理解することができる。

4 指導計画

(「書くこと」15

時間)

学 習 内 容 (時数)
○自分たちの得意なことを発表しながら学習への興味・関心を高めること。 (1)
○新出漢字や読み替え漢字、言葉の意味について学習すること。
○学習計画を立てる。

	○相手や目的が違くと書き方が違ってくことを理解し，だれに，どんな目的で書くの (1)
	かをけっまりさせること ○読み手の興味を引きつける表現や分かりやすい表現について例文を通して考えること (2)
共通 題材	○書くことを整理し，小見出しをつけ，目次に仕立てること。 (2)
	○今まで作成した学習カードを手引きとして説明書を書くこと。 (2)
	○書いたものを読み直し，読み手に分かりやすくなっているかを推敲して説明書を (2) 完成させること
個人 題材	○書くことを整理し，小見出しをつけ，目次に仕立てること。 (1)
	○今まで作成した学習カードを手引きとして説明書を書くこと。 (1)
	○書いたものを読み直し，読み手に分かりやすくなっているかを推敲すること。 (1)
	○推敲したものに絵や図を付け加えて，説明書を完成させること。 (1) (本時)
	○本の形にしたあと，互いの文章を読み合い，よさを認め合うこと。 (1)

5 本時の指導

(1) ねらい

①国語への関心・意欲・態度

・自分の書いたものや友達の書いた物を読み直し，読み手に分かりやすくなっているかを推敲し ようとする。

②書くこと

・書いたものを読み直し，読み手に分かりやすくなっているかを推敲することができる。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点 ◇評価
導入 5分	1 本時の学習内容を確認する。 説明書を完成させよう。	・本に仕立てたものを見せ，意欲を喚起する。

展開 35分	2 全体で教師の説明書を推敲する。 主な観点 ・分かりやすく書く。 ・読み手をやる気にさせる工夫がなされている。 ・一文を短い文で書く。	・推敲の観点を確認し、友達の前稿のチェックのときに取りかかりやすいように教師の前稿を全体で推敲する。
	3 推敲の観点に従って改善点を見つける。	・グループで互いに原稿を見合うことで改善点に気付かせる。 ・改善点を付箋紙に書いて原稿に貼るようになる。 ・大きく修正する場合や、原稿の字が乱雑な場合は、書き直すように勧める
	4 自分の原稿を見直す。	・書くことが苦手な児童の支援にあたる。 ◇読み手に分かりやすい文章に書き直しているか。(シート)
終末 5分	5 今日の感想を発表する。	◇本時の学習を振り返りシートに感想を書き込むことができる。(シート)
	6 次時の学習について知る。	・次時の学習することを確認し、学習への意欲をもつことができるようにする。

座席表

黒	板
---	---

S・N	U・M	M・R	I・T	K・S	S・K
-----	-----	-----	-----	-----	-----

S · A	T · S
T · A	O · R
H · S	T · I
A · M	S · R

Y · T	A · S
H · K	K · S
O · E	K · K
N · T	H · M

Y · Y	I · R	
S · M	K · S	
S · K	K · K	
I · S	T · R	H · K